

生徒自らがより適切な表現を追求する授業を目指して

—「書くこと」における学習活動と単元構想の工夫を通して—

白石市立東中学校 菊地 芙美子

1 授業づくりに関わる課題

本校ではこれまで、全国学力・学習状況調査の「書くこと」の領域で、書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること、伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことなどに関する課題が見られた。

これまでの「書くこと」の授業を振り返ると、書いた文章を読み合い意見を交換する場面を設定しても、生徒同士が感想を言い合うことに留まることが多かった。また、相手や目的を変えてもう一度書いてみるなど、学習したことを繰り返し試したり、生かしたりする場面の設定が不十分であった。

本研究では、これらの課題解決に向けて、令和3年度の新学習指導要領全面実施を前に、その趣旨を踏まえた国語科の単元構想、授業設計に取り組むこととした。

2 研究の内容と方法

本研究では、第1学年国語科「書くこと」領域において育成を目指す生徒像を次の通りとする。

- 具体的な記述を取り上げながら、書いた内容を吟味できる生徒
 - 学習したことを生かして、相手や目的に応じた文章を書くことができる生徒
- これらに近づくために、次の手立てを講じた授業づくりを進めていく。
- より適切な表現に気付く学習活動の設定（手立て1）
 - 学んだことを活用・適用する単元の構成（手立て2）

手立て1は、単元の目標を達成するために適した学習活動を工夫することである。言語活動が十分に行われる教材を開発し、どのような書き方がより適切な表現になるのか、生徒自らが考えを深められるような発問や指示を検討する。

手立て2は、育成を目指す資質・能力を明確にした単元の構想を練ることである。単元の前半で、文章をどのように書けばよいのか捉え、単元の後半では、一度書いて学習したことを生かし、異なる相手や目的でもう一度書くという構成を基本とする。文章を一度書いて終わりではなく、二度書くことでより確かに資質・能力を身に付けられると考える。

3 I期の取組について

【単元名 「読み手を意識した構成で書こう」】
（東京書籍 新編 新しい国語1）

(1) 単元の目標

- ・ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕(1)エ
- ・ 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
- ・ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ
- ・ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

(2) 言語活動

「『私』の説明文」と「『白石市』の説明文」を書く。

(3) 単元の全体計画

時	主たる学習活動
1	I 「『私』の説明文」を書く。 ○自分の特徴が分かる事柄や、自分に関連する事柄を書き出し、材料を集める。 ○自分が伝えたいと思う材料と、より読み手を意識した材料を選択し、整理する。
2	○構成の基本的な型を使って、材料を分類する。
3	○文章を記述する。
4	○内容の中心としたい事柄が際立つように構成や展開を考えて書いているか、読み手の立場になって文章を読む。 ○相手や目的に応じて書くとは、どのようなことかを考え、まとめる。
5	II 「『白石市』の説明文」を書く。 ○前時までに学習したことを基に、「白石市」を紹介するための材料を集め、整理する。 ○構成や展開を考え、材料を分類する。
6	○文章を記述する。 ○互いの文章を読み合う。 ○単元の学習を振り返る。

(4) 研究テーマに迫るための手立て

① より適切な表現に気付く学習活動の設定

ア 例文の提示

読み手を意識して書くことの大切さを実感させたいと考え、本単元では、教師が意図的に作成した同じ構成の型を用いた例文3種類を読み合う学習活動を設定した。それぞれの例文と作成した意図は以下の通りである。

〈例文A〉「伝えたいことに応じた材料が不足している」

「将来の夢」

僕の夢は教師になることだった。その夢を叶えた今も、将来の夢がたくさんある。それを紹介したい。

まず、絵の個展を開くことだ。大学生のころから絵を描き始めて、作品がすでに30作品になった。主に人物を中心に描いている。次に挑戦したいのは、年配の方のしわを描くことである。

次に、ギャラリーカフェである。教え子たちと近況報告をしながら語り合う場を作ろうと考えている。できれば食事を持ち寄り、なつかしい話をしてほしい。そこには僕の描いた絵を飾っている予定だ。最高の空間だ。

最後に、教え子たちの顔を描いてプレゼントすることだ。友達の誕生日プレゼントにはいつも似顔絵を贈る。とても喜んでくれるのでうれしい。8月にも友達の誕生日があるので今から頑張っ

て描いているが、いずれは教え子たちにサプライズでプレゼントできるように計画していきたい。

このように、美術も世界旅行も僕の将来の夢として大事に育て

ていきたい。

〈例文B〉「伝えたいことに応じた材料がある」

「今年1年頑張りたいこと」

私は今年3つのことを頑張りたい。

まず、理科の授業だ。私は教師になって2年目である。理科の教師になりたいと思ったのは、生き物が大好きだからだ。生き物の中では、イモリが大のお気に入りである。クラスでもイモリを2匹飼っている。イモリ係が毎日エサをあげ、掃除をしてくれる。毎日しっかり仕事をしてくれるので助かっている。

次に、陸上である。昨年度から陸上部の顧問として指導にあたっている。私自身も小学校4年から陸上を始めた。高校の頃の指導者には大変お世話になった。私も陸上を通して努力することの大切さを生徒に教えていけるように頑張りたい。

最後に、筋トレである。私は大学時代、パワーリフティング部に所属していた。パワーリフティングとは、重いものを持ち上げる競技である。最高で170キロを持ち上げたことがある。今も趣味として週1回ジムに通い、トレーニングをしている。目標は室伏広治だ。

このように、今年は仕事と趣味を両立していきたい。

〈例文C〉「伝えたいことに応じた材料が全くない」

「私の生活の変化」

私の生活は今年になって大きく変わった。どのように変わったか紹介したい。

まず、朝の登校指導である。毎日校門に立ち、東中生を迎える生活も3か月が過ぎた。最近暑くなってきて、汗をかきながら一生懸命に登校してくる姿に、東中生のたくましさも感じる。

次に、職員室の座席の位置である。今年は、生徒が職員室に入ってくる入口から遠い位置にいる。そこは、廊下を歩いている生徒が見えるいい場所だ。また、特別教室の鍵が置かれている場所に近い。鍵を借りに来る生徒と会話するのも楽しみのひとつだ。

最後に、料理をするようになったことだ。今までは、生きるための最低限のことはしていたが、実際、できたものを買うことが多かった。最近は、休日を利用して料理することが多くなった。先週の休日は、ピザ作りをした。人生で初めてのピザ作りだったが、生地ももちもちに仕上がって、味も好みのものになった。

このように、私は、国語の先生としていろいろなことを頑張っ

ていきたい。

イ より適切な表現に気付く発問や指示の工夫

例文を読み合う際に、事例の挙げ方を検討できるように、「一番伝えたいことはどのようなことですか」「伝えたいことは伝わっていますか」と発問し、また、読み手に伝えたいことが伝わる書き方を考える際に、「読み手に伝えたいことを明確に伝えるためには、どのようなことに気を付ければよいですか」と発問した。

② 学んだことを活用・適用する単元の構成

ア 相手や目的を変えた文章の作成

単元の後半には、姉妹都市である神奈川県海老名市の中学生を読み手とする「『白石市』の説明文」を書く活動を設定した。それまでに学習した「材料の選択」や「材料の配置」を意識して文章を書く課題を設定した。

(5) 成果と課題(成果：○ 課題：●)

① より適切な表現に気付く学習活動の設定

ア 例文の提示

- 教師が意図的に作成した例文を使うことで、気負わず考えを出せる生徒が多く見られた。
- 「まず」「次に」「最後に」「このように」という接続表現を用いた同じ構成の文章を作成したことで、生徒は、材料や内容の比較が簡単

- 伝えたいことが伝わっている例文と、伝わっていない例文とを比較させながらその違いについて考えさせることで、伝えたいことに関連付けた材料を選択する必要があることに気付くことができた。

イ より適切な表現に気付く発問や指示の工夫

- 「読み手に伝えたいことをはっきり伝えるためには、どのようなことに気を付ければよいですか」という発問に対して、「伝えたい内容に合った材料を選択すること」「伝えたい内容に応じた材料を、どういう順番で伝えれば読み手にはっきり伝えたいことが伝わるのか考えて書くこと」などの回答があった。

- 例文中の接続表現やその働きに着目できず、書き手が一番伝えたいことについて、その説明をする段落から探している生徒が数名いた。

② 学んだことを活用・適用する単元の構成

ア 相手や目的を変えた文章の作成

- 学習の振り返りでは、「何を書くか」だけに留まらず、「伝えたいことを伝えるためにどのように書くか」など、読み手は誰になるのか考えて書こうとする記述も見られた。
- 文章を読み合う十分な時間が設定できずに、読み手を意識した書き方になっているかについて、生徒同士で意見を共有することができなかった。

「好きなスポーツ」

中学校に入って3か月。小学校の時から好きなスポーツがあったが、中学校に入ってから好きなスポーツが増えた。では、今、僕が好きなスポーツを3つ紹介したい。

まず、水泳をすること。小学校まで水泳をやっていた。最初は、泳ぐこともできなかったが、コーチが優しく教えてくれた。今は、クロールが得意だ。

次に、バスケをすること。小学校の時、遊びでやっていたらはまってしまい、今は好きなスポーツのひとつになった。いろいろと難しいが、楽しくやっている。

最後に、テニスをする事だ。兄の影響もあってテニス部に入った。初めてやるので難しいが、先輩が教えてくれる。今は、兄や先輩のように、格好よくなるために頑張っている。

このように、好きなスポーツが中学校に入ってから増えてきたので、いろいろなスポーツをやって好きなスポーツにしたい。

図1 生徒が、学年の生徒に向けて、伝えたいことに応じた「材料の選択」と「材料の配置」を意識して書いた「私の説明文」

「白石市にあるもの、見えるもの」

白石には、いろいろなもの、白石から見えるものがあります。その中から3つ紹介したいと思います。

まず、温麺です。温麺は、油を使わない麺です。油を使っている麺とは違ってヘルシーです。

次に山です。白石からは、蔵王山が見えます。蔵王山にはスキー場があり、冬にはたくさんの方が来ます。

最後に自然です。白石は、蔵王山が見えるし、周りは森や畑、田んぼです。周りが自然なので、森に行けば山菜がとれるし、周りが畑や田んぼなので、あまりできない畑仕事や田んぼの仕事ができます。

これらのことから、白石には油を使わない温麺だったり蔵王山が見えたり、冬になればスキーはできるし、周りが自然なのであまりできない田んぼの仕事などもできるので、白石に来る機会があればいろいろなものを見ていってください。

図2 図1と同じ生徒が、海老名市の中学生に向けて、伝えたいことに応じた「材料の選択」と「材料の配置」を意識して書いた「白石市の説明文」

4 II期の取組について

【単元名 「報告文を書いて互いに読み合おう」】
（東京書籍 新編 新しい国語1）

(1) 単元の目標

- ・ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)ウ
- ・ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ
- ・ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

(2) 言語活動

文化祭の様子について、報告の文章を書く。

(3) 単元の全体計画

時	主たる学習活動
1	I 文化祭の報告の文章を書く。 ○案内や報告の文章に必要な情報と目的に応じた形式の選択や適切な表現、的確な構成について考える。
2	○報告の文章を読み直し、事実を正確に伝える文章になっているか確かめる。
3	II 文化祭の報告の文章を書き直す。
4	○報告の文章を読み合い、目的に応じて事実を正確に伝える文章になっているか、再度、確かめる。 ○単元の学習を振り返る。

(4) 研究テーマに迫るための手立て

① より適切な表現に気付く学習活動の設定

ア 教材の工夫

「報告の文章」にふさわしい適切な表現を考えるために、仙台七夕花火祭に関する新聞記事を読む学習活動を設定した。新聞記事を読んでどのような場面が思い浮かぶのか、また、どのようなことが伝わるのかを考え、次に、なぜそのように感じられるのかを、文章の構成や叙述と結び付けて考え、表現の工夫に気付くように組み立てた。

イ より適切な表現に気付く発問や指示の工夫

適切な表現の具体例に気付かせるために、「伝えたいことを直接書いていないのに伝わるのはなぜだろう」「伝えたいことを伝えるためには、何を、どのように書いたらよいのだろう」という発問をした。

② 学んだことを活用・適用する単元の構成

ア 振り返り場面での発問の工夫

学んだことを活用しながら報告の文章を書き直す活動へとつなげるために、「報告の文章を書くときには、どのようなことに注意して書けばよいですか」という発問をし、ノートに考えを記入する場面を設定した。

イ 文章を見直す活動の設定

学習したことを生かして自分の文章をどのように書き直すのか、修正点を考える時間を設定した。また、修正箇所について、なぜそのように修正するのか理由を考える場面を設定した。

ウ 文章を書き直す時間の設定

修正箇所を中心に書き直す時間を設定した。

(5) 成果と課題(成果：○ 課題：●)

① より適切な表現に気付く学習活動の設定

ア 教材の工夫

- 数字や固有名詞、会話文の引用があることで、「楽しかった」「盛り上がった」などの直接的な表現を使わなくても、読み手に場面の様子が伝わるということを生徒が確かめることができた。

イ より適切な表現に気付く発問や指示の工夫

- 「楽しかったということを伝えるために、友達との会話を引用しながら書く」「緊張感のある本番前の様子について、会話文を引用して表現する」「結果発表の盛り上がった場面を、数字を取り入れながら書く」「素晴らしいという様子を、会場からの拍手があがっていたと書く」など、「報告の文章」としてより適切な表現について、生徒自身が具体的に考えることにつながった。また、この考えや気付きは、自分の文章を見直す際の視点として活用することができた。

② 学んだことを活用・適用する単元の構成

ア 振り返り場面での発問の工夫

- 「報告の文章」を書く際のポイントが明確になり、単元の3時間目に行う「報告の文章」を書き直す活動へつなげることができた。

イ 文章を見直す活動の設定

- なぜその表現を取り入れるのか理由を説明する場面も設けたことで、他の生徒から「自分も真似をしたい」「違いが具体的に分かる」などという意見が出た。

ウ 文章を書き直す時間の設定

- 生徒は、どのように修正していくのか考えを明確に記してから書き直す活動に入っているため、迷いなく活動に取り組めた。授業の中ですべての生徒が書き上げることができた。

「全校制作」

9月4日。残念ながら雨のため本来とは違う形での東中祭となってしまいました。午前中は、学年レクリエーションと全校制作。午後は、吹奏楽部の演奏や有志発表などが行われました。

全校制作では、東中祭のスローガン「Step the Future」の文字を制作しました。1年3組は、Stepのeを制作しました。それぞれが未来へ向けて希望や夢をカードに書いてeの文字になるように貼り付け制作しました。空いたスペースに絵を描き、よりよくなりました。

閉会式で、各クラスで制作した文字を並べ発表しました。どのクラスも絵や貼り付け方に工夫があり、とても素晴らしいなと思いました。

図3 単元の1時間目書いた「報告の文章」

「全校制作」

9月4日。残念ながら雨のため本来とは違う形での東中祭となってしまいました。午前中は、学年レクリエーションと全校制作。午後からは、吹奏楽部の演奏や有志発表などが行われました。

全校制作では、東中祭のスローガン「Step the Future」の文字を制作しました。それぞれが未来へ向けて希望や夢をカードに書き、制作する文字になるように貼り付けていました。

閉会式で、ついに各クラスで制作した文字を並べ発表しました。空いたスペースに絵を描いたり、貼り付け方に違いがあったりと、どのクラスにも工夫があり、より全体が華やかになりました。会場からは大きな拍手が鳴り響きました。

図4 授業実践Ⅱでの生徒作品

1年間を通して、どのように学習活動を組み立てるか、また、どのような教材が必要であるかを考え続けてきた。その際、最も重要なことは、単元で育成を目指す資質・能力を授業者自身が理解することであり、生徒が授業で取り組むテーマの文章を授業者自身が書いてみることであった。そのことが、学習活動の組立、教材の開発、発問の工夫につながっていったと考える。特に、文章のテーマの設定や提示する資料の検討に多くの時間を割いたが、生徒や学校の実態に応じたものを提示することで、従前よりも、生徒が主体的に課題解決に取り組めたと考える。

(2) 研究の課題

本研究においては、特に、学習活動の組立や指示や発問によって、生徒自身がより適切な表現に気付くように促してきたが、教材や教具、学習形態を更に工夫する余地があると考えます。

例えば、文章を書く用紙の余白を大きくとり、構想メモやコメントを書き込むことができるようにしておくことができれば、学習活動をより円滑に、かつ、効果的に進めることができた。また、ICTを活用して文章を交換したりコメントを書き込んだりすることで、学習活動の質を高めることができた。

今後も、育成を目指す資質・能力を的確に捉え、授業改善に取り組んでいきたい。

【参考文献】

国立教育政策研究所 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語

【図表等の許諾について】

図1～図4は、授業実践の中で生徒が書いた文章である。氏名を伏せて掲載することとし、生徒の保護者から使用許諾を得た。

5 研究の成果と課題

(1) 研究の成果